

相談支援を知って、関係機関が連携しませんか？

障害のあるこどもの相談支援 オンデマンドセミナー

今回初めて「相談支援」をテーマに取り上げました。相談支援はこどもと家族、地域を結ぶ重要な役割を果たしています。分野の垣根を超えて協働する第一歩になることを期待しています。

障害のあるこどもの相談支援 オンデマンドセミナーコーディネーター 光真坊 浩史
一般社団法人全国児童発達支援協議会 (CDS-Japan) 理事

受講料
各話 3,300円
(税込み)

2025

配信案内 シリーズ①、② 8/1 (金) ~9/30 (火)
シリーズ③、④ 9/1 (月) ~10/31 (金)

①障害福祉分野における相談支援の仕組みと役割

藤川雄一氏 埼玉県相談支援専門員協会、前厚生労働省相談支援専門官

障害のあるこどもが地域で安心して育っていくためには切れ目のない相談支援が不可欠です。本講義では、障害福祉分野における相談支援について、その目的や仕組み、役割といった基本的な知識から、教育や医療、保健、行政などの関係機関との連携やネットワーク構築などについて、自立支援協議会や基幹相談支援などにも触れながら解説します。

②相談支援体制構築の取り組み(乳幼児期編)

③相談支援体制構築の取り組み(学齢期編)

橋詰 正氏 上小圏域基幹相談支援センター・所長

乳幼児期は発達支援への入口であり、健診など保健との連携した早期の気付きと療育への繋ぎのほか保育所等へのチーム支援、保護者支援が重要です。学齢期は放デイや家庭でのその子らしい過ごしの保障や卒後を見通した支援などが不可欠で、教育と福祉の連携も課題となっています。ここでは、発達段階に応じた支援体制の構築や地域での実践について解説します。

④障害児通所支援等と行政による地域療育支援体制構築の取り組み (小郡市:児童発達支援センターなどを中心とした地域支援の4つの中核機能整備を含む)

岸 良至氏 一般社団法人わ・Wa・わ 理事長

障害のあるこどもとその家族が地域で安心して暮らせるよう、行政と地域の様々な関係機関が連携し、切れ目のない支援体制を構築することが大切です。地域自立支援協議会こども部会を中心に、関係機関の連携強化や研修等を通じた人材育成など、行政と協働して地域づくりを進めている福岡県小郡市の取組を通して考えます。